

2023年3月期第3四半期 決算説明会 質疑応答要旨

日時：2023年2月3日（金） 10：00～11：00

お断り：この要旨は、決算説明会にご出席になれなかった方々の便宜のためにご参考として掲載するものであり、説明会でお話したことの一字一句を書き起こしたものではありません。当社の判断で簡潔にまとめさせていただきました。ご了承ください。

- Q. 海外精密洗浄事業の4Qの受注高水準が高く見えるが、市場環境の事業への影響をどう捉えているか。また、上期に人件費増が発生していたが、現状と対策の進捗はどうか。
- A. 施策は打っているが、半導体産業の動向の影響を受けていることは否めない。特に米中貿易摩擦によって顧客が受ける影響が今後も継続する場合、スローな進捗になる可能性がある。一方で、地政学リスクの点から米国における半導体産業の投資は、若干の時期ずれがあるとしても、堅調に推移していくとみられ、事業機会となり得る。人件費の上昇に対しては、リソースの適切な配分により、ある程度コントロールできている。
- Q. 海外精密洗浄事業の収益性は、2Qに比べて改善しているのか。
- A. 収益性は若干落ちている。売上の進捗が弱いことが要因。
- Q. 人件費や調達コストの上昇といったインフレが、超純水供給事業などの契約型ビジネスの収益性へ与える影響は。
- A. 契約に基づき顧客との交渉を行っており、大きな影響は出ていない。
- Q. 薬品事業における値上げの進捗はどうか。地域別の進捗状況は。
- A. アジア地域では、値上げやコストダウンでカバーしきれない地域が一部あるが、通期では取り戻していく計画。欧州は、上期から継続して原価上昇の影響を値上げやコストダウンで対応できている。北南米は、クリタ・アメリカ社の収益改善の進捗が弱く、値上げを進めているものの原材料コスト上昇との時差が発生している状況。国内は、継続的な取り組みを進め二次値上げの交渉を行っているが、一部で時間を要し想定より遅れている。価格転嫁が十分でない取引には、三次値上げを推進していく。
- Q. 2Qに比べてコスト上昇の水準はどう変化しているか。
- A. 今期に入りウクライナ情勢による原油価格高騰の影響が顕著に表れており、ポリマーの原材料であるナフサが、足元では下降トレンドにあるものの、高水準は継続。引き続き注視が必要と考えている。
- Q. 受注高について、海外向けの装置が3Qから4Qにかけて急激にスローダウンする見通しとなっているが、その背景は。来期の新設需要の見方も含めて教えていただきたい。
- A. 半導体市場は現在生産調整の局面に入っており、上期までのトレンドが今後も継続するとは見ていない。しかし、大手半導体メーカーについては、数年先の需要予測に基づき投資を行い、半導体関連企業も同様に投資を継続していくと見ている。当社では生産キャパシティや収益性等を見極めて案件を選別しており、案件の内容によっては4Q見通しに対して追加で獲得する可能性もあり得ると考えている。

- Q. 国内一般産業向け装置事業の 4Q の受注高の見通しのハードルが高いように見える。すでに見えているものがあるのか、それとも想定に対し進捗が下回っているのか。
- A. エネルギー・インフラの一部の事業においては、顧客の投資計画の影響を受けて通期の見通しに対してスローな進捗となっている。4Q に一定の需要を見込んでいたため前回見通しを据え置いているが、高い水準ではあると認識している。
- Q. 精密洗浄以外のサービス事業でリスクとして考えなければならないものはあるか。
- A. 精密洗浄以外では、エネルギー・インフラの一部事業の進捗がスローであることを除くと、新型コロナウイルス感染拡大の影響から回復してきており、特にリスクとして見えているものはない。
- Q. 海外精密洗浄事業の収益性が弱くなっている点について、上期に高騰した人件費に対する値上げを行う予定だったと思うが、この取り組みが遅れているのか、それともタイムラグによるもので回収の目途はたっているのか。
- A. 人件費の高騰については、値上げによる回収を進めており、3Q に大きな影響はないと考えている。売上高が想定に対しスローな進捗となっている点が、収益性の弱さに繋がっている。
- Q. 3Q における薬品事業の CSV ビジネス展開の進捗は。
- A. 薬品事業の CSV ビジネスの 3Q 累計の受注高は約 160 億円。そのうち海外が約 90 億円で、現地通貨ベースでは約 40%の伸びとなっている。
- Q. 中国、韓国で装置案件を多く獲得しているが、現場の負荷や生産キャパシティの状況はどうか。
- A. 生産キャパシティは、かなりひっ迫している状況であり、引き合いに対し辞退するケースも出ている。顧客との関係性やメンテナンスを含めた将来への収益貢献を考慮して、受注している状況。
- Q. 来期の装置案件の受注は、無理して積み上げる方向ではないということか。
- A. 装置事業においては、部材の長納期化を踏まえて前倒しで受注を受けている部分もあるため、来期の受注は落ち着いてくると想定している。
- Q. 国内の超純水供給事業の受注高・売上高は、前期比で約 60 億円増収となる通期見通しに変更はなく、3Q も想定線で推移しているように見える。来期も同程度の成長が期待できるのか、それとも半導体需要の調整局面を背景に伸び悩むのか。
- A. 今具体的な数字はお答えできないが、今期に設備投資を行っている案件の売上貢献もあり、成長は見込めると考えている。
- Q. 中期経営計画における事業利益率の目標 15%の達成が厳しい要因の一つにクリタ・アメリカ社の収益性改善の遅れがある。薬品事業では引き続き苦勞しているようだが、実態として収益性の改善は進んでいるのか。
- A. クリタ・アメリカ社については、主力市場である商業施設向けがコロナ影響で前期、前々期は空調設備の稼働が低下していたが、今期は回復傾向にあり、その他の工業向けも需要は回復傾向。また、外部環境の影響を受けにくい食品市場にリソースを集中させている。コスト面では、原材料価格の高騰や物流費の上昇の影響が継続しており、値上

げによるキャッチアップが想定よりも遅れている部分はあるが、全体としては、収益性は改善の方向に進んでいると認識している。

- Q. 来期について、今期の受注高の売上計上タイミングや、電力や原材料のコスト動向が収益性にどう影響するか、業績推移のイメージを伺いたい。
- A. 来期の具体的な計画は、現在策定中であり回答を差し控えるが、装置案件の受注が今期の水準からはスローダウンすることが想定される一方で、売上面では受注残からの貢献が期待される。原材料価格やエネルギーコストの上昇は状況を見ながら価格転嫁等でカバーしていくという方向は変わらない。
- Q. 海外における装置の受注高が3Q時点で通期見通しを上回る規模となった要因は。同様に4Qでも想定以上となる可能性はあるか。
- A. 半導体関係で旺盛な投資が続く市場環境を背景に、主に東アジアを中心に案件が多く出てきていた。4Qについても市場環境や案件によっては、受注が見通しを上回る可能性はある。

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により異なる可能性があります。